

人々を幻想空間にいざなう。

熊本県熊本市。上通りから通町筋の横断歩道を渡り、下通りへ。すると入り口付近に何やら白い物体が出現。淡く発光するそれは、どこからどう見てもキノコである。下通りのほうを見通してみれば、散在する白い光。どうやら奥の方までキノコは存在しているようだ。気になって歩いてみる。奥に行けばいくほど、純白のキノコは数を増していく。視界に点々とともる白い光。歩く人はい世界に迷い込んだような気分になる。下通りの終端と新市街の駐輪場には、巨大なキノコのコロニーがある。キノコはさらに増え、夜歩く人々を幻想的な空間にいざなう。

さびれた印象を払拭。

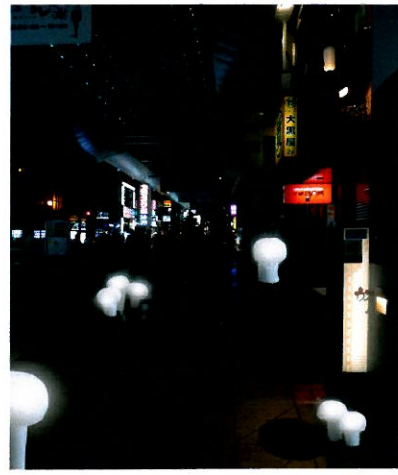
店舗の電灯があるとはいえ、夜の下通りは薄暗く、どこかさびれた印象を受ける。新市街はさらに人通りが少なく、さびしい雰囲気である。そこで上記のようなキノコのアプローチを提案する。異質な存在感のある白いキノコ。歩いていくとだんだん増えていく。街の雰囲気とは全く釣り合いなそれは人々の注意をひきつけ、新市街まで運んでくれるのではないだろうか。また淡く発光するので、薄暗い通りと調和しつつ照らしてくれるし、幻想的な雰囲気を作り出してくれる。痴漢などの犯罪件数の減少も期待できる。

昼と夜の有用性。

このキノコは人工物である。頭部分はすりガラスのような半透明の素材で、その下はセラミックのような白い素材でできている。頭部分の中に LED を入れて、夜に点灯する。アーケードの上にソーラーパネルを設置し、昼のうちに充電しておけば、電気代のコストもかからない。また昼間のうちは、歩き疲れた人々がちょっと休憩するために座る椅子として利用することができる。



←下通りの入口に、何やら
白い物体。キノコのような
形で淡く発光している。



←奥に行けばいくほど
白いキノコは増えてい
くようだ。



一枚を着すキノコ



←さらに増える。
あたりは光に包まれていく。



→↑新市街付近には、キノコのコロニーが点在し、神
秘的な空間を作り出す。